



2026.8 No.77

産業医大通信

U O E H

産業医科大学通信

University of Occupational and
Environmental Health, Japan

学校法人 産業医科大学 総務課 広報室
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

TEL 093-603-1611 (代表)

<https://www.uoeh-u.ac.jp/>

2026年8月20日発行 (隔月20日発行)

◆「どこに行けばいいの？」を解決する、
身体の形と機能をまもる『形成外科』

◆薬剤関連顎骨壊死の予防と治療について



Contents

◆「どこに行けばいいの？」を解決する、
身体の形と機能をまもる『形成外科』

◆薬剤関連顎骨壊死の予防と治療について

報道機関で紹介された
産業医科大学 (6/4～7/31)

テレビ出演のご紹介 (7/7)

Information

第28回出前出張公開講座のご案内
(慢性肝臓病／クローン病・潰瘍性大腸炎)

第27回出前出張公開講座を開催
(間質性肺炎／肺がん)



産業医科大学
モバイルサイト
こちらから！
<https://www.uoeh-u.ac.jp/>



部埼灯台(門司区) 北九州市 時と風の博物館

「どこに行けばいいの?」を解決する、 身体の形と機能をまもる『形成外科』

形成外科 診療科長 遠藤 淑恵

1 はじめに 形成外科を知らないために、適切な医療に辿り着けない方をなくしたい

「形成外科」をご存知ですか? 「皮膚科や整形外科と何が違うの?」「美容外科に近いもの?」など、いろいろな質問を受けることがあります。

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、整容的な不満足に対して、さまざまな技術を駆使し、機能・形態的により正常に、より美しくすることで、みなさまの生活の質(QOL)の向上に貢献する診療科です。けが・やけど・きずあと・治らない傷・生まれつきの形の異常・がん切除後の再建など、身体の表面に関わる幅広い問題を扱います。

形成外科で治療できるにもかかわらず、形成外科を知らないが故に適切な医療に辿り着けない患者さんが少なくありません。医療従事者や医学部の学生でさえ、形成外科の担当領域をよく知らないことがあります。この記事が、「形成外科という選択肢があること」を知るきっかけになれば嬉しいです。

2 形成外科の歴史 再建の知恵から産業医大の歩みへ

世界の形成外科の最古のルーツは、紀元前600年頃の古代インドにまで遡ります。当時のインドでは、犯罪者や捕虜に対して鼻を切り落とす「鼻削ぎの刑」が行われていましたが、失われた鼻を再建するために額の皮膚を移動させて鼻を作る「造鼻術」が考案されました。16世紀

イタリアでは外科医タリャコツィが前腕の皮膚を用いて鼻を形成する手術を報告しています。

その後、二度の世界大戦時に戦傷者の外傷に対する再建外科として近代医学の中で発展し、日本においては1958年に日本形成外科学会が発足しました。

産業医科大学病院 形成外科は、2005年に皮膚科から分かれて独立し、病院診療科としての歩みをスタートさせました。初代診療科長である安田 浩先生をはじめとする先人の尽力によって現在の診療体制の土台が築かれ、今日まで発展を続けてきました。産業災害による熱傷や外傷、地域医療における難治性潰瘍などの治療に長年従事しています。

3 形成外科が扱う疾患

形成外科が対象とする疾患は多岐にわたりますが、大きく以下の4つに分類することができます。

①けが・きずあと

日常の「きず(外傷)」「切断指」「やけど(熱傷)」に加え、「低温熱傷」「化学熱傷」「凍傷」「電撃傷」といった特殊な熱傷にも対応します。「顔面骨折(前頭骨・鼻骨・眼窩底・頬骨・上下顎など)」「顔面神経損傷」「唾液腺損傷」といった顔面の複合損傷も治療します。手術後やケガの後に赤く盛り上がる「ケロイド(元の傷を超えて傷跡が広がるもの)」や「肥厚性瘢痕(傷の範囲に留まるもの)」、ひきつれを起こして関節などの運動制限を伴う「瘢痕拘縮」の修正のほか、寝たきりの方の「とこずれ(褥瘡)」、虚血による潰瘍や糖尿病による「難治性潰瘍」の治療も行っています。

②生まれつきの病気

唇や上あごが割れて生まれる「口唇口蓋裂」、頭の骨が早期に骨癒合して変形する「頭蓋縫合早期癒合症」、生まれつきまぶたが上がらない「先天性眼瞼下垂」、耳に関する「小耳症」「副耳」「耳(前)瘻孔」「埋没耳」など、主に顔面を中心とした先天異常を整えます。さらに手

形成外科の歩み

古代インドから産業医科大学病院形成外科発足まで



図1 形成外科の歴史



形成外科で扱う疾患

外傷	先天異常	腫瘍	その他・美容外科
けが 外傷、切創傷、顔面神経損傷、涙道損傷、唾液腺損傷 やけど（熱傷） 熱傷、低温熱傷、化学熱傷、凍傷、電撃傷 きずあと 瘢痕、ケロイド・肥厚性瘢痕、瘢痕増殖 とこずれ・難治性潰瘍 褥瘡、糖尿病性潰瘍、虚血性潰瘍、静脈性潰瘍 顔面骨折 前頭骨、鼻骨、眼窩、頬骨、上顎骨、下顎骨	頭・顔 頭蓋縫合早期癒合症、口唇口蓋裂、口蓋裂、口蓋裂、第一第二腭弓症候群 目・耳 先天性眼瞼下垂、小耳症、副耳、耳垂裂、耳瘻孔、埋没耳 首・胸・腹 正中・側頭囊腫、嚥下嚥、胸膈、ホーランド症候群、胎生乳頭、副乳、前突出症、臍ヘルニア、尿道下裂、半陰陽 手足 合指症、多指症、多趾症、紋面輪症候群 皮膚（母斑） 色素性母斑、母斑症、扁平母斑、太田母斑、血管腫・血管奇形、リンパ管奇形、神経線維腫症	乳がん術後の乳房再建 人工物（インプラント）による再建、自家組織による再建 頭頸部のがんに対する再建 切除後の組織欠損に対する再建 皮膚・皮下の良性腫瘍 粉瘤、ほくろ、脂肪腫、表皮嚢腫、石灰化上皮腫、異物肉芽腫 皮膚癌・軟部悪性腫瘍 基底細胞癌、扁平上皮癌、ボーエン病、バジネット病、乳房外パジェット病、悪性黒色腫、軟部悪性腫瘍	顔面神経麻痺後遺症 リンパ浮腫 眼瞼下垂 顎変形症 爪・毛・その他 毛黒濁、陥入爪・巻き爪、禿髪、義眼手術、腋臭症 美容外科 重瞼術、整鼻術、フェイスリフト、豊胸術、脂肪吸引、顔面手術、体内異物、しみ

図2 形成外科が扱う疾患

足の指がくっついている「合指（趾）症」や指の数が多い「多指（趾）症」、また体幹の「陥没乳頭」「臍ヘルニア（でべそ）」や、各種の「あざ」や「母斑」の治療も対象で、当科では乳児血管腫や単純性血管腫に対してレーザー治療を行っています。

③腫瘍（しゅよう）

皮膚や皮下組織にできる「粉瘤（アテローム）」「ほくろ」「脂肪腫」「石灰化上皮腫」などの良性腫瘍から、「基底細胞癌」「有棘細胞癌」「悪性黒色腫」などの皮膚癌・軟部悪性腫瘍の切除まで行います。さらに乳がん術後の乳房再建や頭頸部がん切除後の再建手術など、失われた部位を組織移植によって機能的・審美的に再構築するのも形成外科の領域です。

④その他・美容外科

加齢によってまぶたが下がったり皮膚が弛んだりして視野が狭くなる「眼瞼下垂症」、歩行時に爪が食い込んで激しい痛みを伴う「陥入爪・巻き爪」、「顔面神経麻痺後遺症」に対する表情筋の動きを回復させる手術や顔の非対称を整える手術、がん治療後や特発性の「リンパ浮腫」に対するリンパ管と静脈をつなぐ手術（リンパ管静脈吻合術）、「腋臭症（わきが）」など多岐にわたります。また、形成外科で培った技術や知見

をベースにした「美容外科」も形成外科の一分野です。

4 院内の診療科との連携体制

形成外科は多くの診療科と緊密に連携しながら診療を行っています。広範囲熱傷や重症外傷では救急・集中治療科と連携して治療にあたっています。呼吸器・胸部外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科・口腔外科、消化器・内分泌外科、皮膚科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、眼科などと「手術協力」や「合同手術」を行うほか、多くの診療科から傷がうまく治らないトラブルの相談を受け、創傷管理に協力しています。放射線治療科と連携したケロイド切除後の電子線照射や、血液内科・膠原病リウマチ内科からの診断目的の生検手術、循環器内科と連携した下肢潰瘍の治療など、内科系も含めた幅広い診療科と連携しながら患者さんをサポートしています。

5 おわりに 迷わず、いつでもご相談ください

形成外科は、キズを塞ぐだけでなく、機能を保ち、できるだけきれいに治すことを大切にしています。「これはどこに相談すればいいのだろう」と迷ったときは、どうぞ気軽に形成外科にお声がけください。院内の他の診療科とも連携しながら、一緒に考えさせていただきます。

形成外科の診療科連携



図3 診療科連携

薬剤関連顎骨壊死の予防と治療について

歯科・口腔外科 助教 上田 大 佑

1 はじめに

骨粗鬆症や、乳がん・前立腺がんなどの骨転移、多発性骨髄腫といった骨に関する病気の治療では、「ビスホスホネート製剤」や「抗RANKL抗体製剤」と呼ばれるお薬が広く使用されています。これらのお薬は、古くなった骨を吸収する破骨細胞の働きを抑えることで骨の量を保ち、骨折の予防や、がんの骨転移に伴う痛みの軽減に欠かせないものです。

その一方で、これらのお薬を使用している方に、まれに生じる副作用として「薬剤関連顎骨壊死（以下、MRONJ）」があります。MRONJとは、あごの骨の治る力が低下し、骨が露出して治りにくくなったり、骨が壊死したりする病気です。病状が進行すると、痛みや腫れなどの症状に加え、あごの骨が折れて食事が難しくなったり、皮膚に穴が開いて膿が出たりすることもあります。高齢化によってこれらのお薬を使用する方が増え続けるなか、ここ数年でMRONJの予防・治療に関する考え方も大きく変わってきました。そこで今回は、MRONJに対する最近の知見と、当科で行っている治療の取組についてご紹介します。

2 MRONJの原因と予防の考え方

MRONJの発症にはさまざまな要因が関係していますが、歯周病や虫歯などによる細菌感染があごの骨に及ぶことが、主な要因の一つとされています。

ビスホスホネート製剤や抗RANKL抗体製剤は、骨の量を保つ一方で、骨の新陳代謝を抑える作用もあります。そのため、あごの骨に細菌感染や外傷が加わった際、本来であれば自然に治

る傷が治りにくくなり、炎症が長引いてMRONJにつながります。特に、がんの骨転移などに対してこれらのお薬が使用される場合は、骨粗鬆症の治療に比べて用量が多く、投与間隔が短いため、MRONJの発症リスクが高くなります。

以前は、「抜歯をすると顎骨壊死になりやすいので、これらのお薬を使っている間はできるだけ抜歯を避けるべき」と考えられていました。確かに、抜歯がMRONJ発症のきっかけになることはあります。しかし近年では、抜歯そのものではなく、「抜歯が必要になるほど悪化した歯周病や虫歯」が感染源として重要であると考えられるようになってきました。つまり、MRONJを心配するあまり、感染した歯を無理に残し続けることが、かえって危険になる場合もあるのです。

そのため現在では、抜歯が必要と判断される場合には、これらのお薬を使用中でも、適切な感染対策のもとで抜歯を行い、感染源を取り除くことがMRONJの予防には重要と考えられています。

3 MRONJの進行と当科での治療方針

MRONJは、症状の程度によって大きく3つのステージに分類され、当科では患者さん一人ひとりの病状に合わせて治療方針を決定しています。

初期の「ステージ1」では、歯ぐきからあごの骨が露出したり、違和感が出たりしますが、痛みや腫れが少なく、気づきにくいこともあります。この段階では、かかりつけ歯科医院の先生方と連携しながら、お口の中の清掃状態を整え、病変の状態に応じて治療方針を検討します。「ステージ2」になると、あごの痛み、歯ぐきや頬の腫れ、膿が出るなど、症状がはっきりしてきます。



さらに進行した「ステージ3」では、強い痛みや腫れに加え、あごの骨が折れる病的骨折や、皮膚に穴が開いて膿が出る瘻孔（ろうこう）を生じることもあり、日常生活に大きな支障をきたす場合があります。

痛み・腫れ・化膿などが続く場合や病変が広がっている場合には、CTなどの画像検査で病変の範囲を評価したうえで、壊死した骨を外科的に取り除く手術を検討します。近年では、MRONJに対する外科的治療により症状の改善が得られる症例も増えています。

写真の症例は、MRONJが進行して皮膚に穴が開いてしまった重症の患者さんです。全身麻酔下で壊死した骨を切除し、チタン製プレートを用いてあごの形を再建する手術を行いました。これにより、あごの痛みは軽減し、皮膚に開いた穴はふさがり、良好な経過が得られています。

ただし、すべての患者さんにこのような手術が適用できるわけではありません。ご高齢の方、体力が低下している方など手術による負担が大きいと判断された方には、無理な手術は行わず、症状を和らげる治療や感染を抑える治療を中心に行うこともあります。

4 予防のために患者さんにお願いしたいこと

MRONJは、一度発症すると治療に時間を要

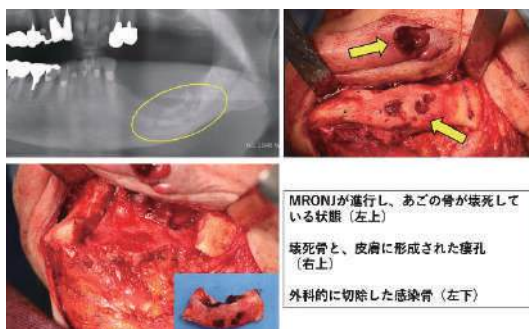
し、症状が改善しても長期的な管理が必要になる場合があります。そのため、何よりも発症を防ぐことが重要です。

予防の基本は、お口の中を清潔に保ち、虫歯や歯周病などの感染源を早めに治療することです。日頃の丁寧な歯磨きに加え、かかりつけの歯科医院で定期的なメンテナンスを心がけましょう。

また、MRONJを心配して、ご自身の判断でお薬を中止してしまう方が時折いらっしゃいます。しかし、これらのお薬は、骨折やがんの骨転移に伴う合併症を防ぐために欠かせないものです。

以前は、抜歯などの歯科治療を行う際に、一時的にお薬を休む「休薬」が行われることがありました。しかし現在では、休薬がMRONJの予防につながるかどうかは、まだはっきりしていません。休薬の必要があるかどうかは、骨粗鬆症やがんの状態、歯科治療の内容などを踏まえて、主治医と歯科医師が相談して判断します。自己判断でお薬を中止することは絶対に避けてください。

現在これらのお薬を使用している方、あるいはこれから使用する予定のある方は、ぜひ定期的な歯科受診を習慣にしてください。お口の中で気になる症状がある場合は、お近くの歯科医院、または当科までご相談ください。





報道機関で紹介された産業医科大学

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。「産業医大 報道」で検索してください。

〈6月4日(木)～7月31日(金)〉(広告、開催案内等の記事除く)

日時	媒体名	内容	所属		氏名
6月4日(木)	TVQ九州放送 「テレQ ニュース+」	「福岡でも統合・閉鎖の動き」 若松病院の集約化について紹介	産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月6日(土)	TNC 「福岡ニュースファイル CUBE」	コスト増が進む医療現場で何が起きているのか？ 若松病院の集約化についても紹介			
6月11日(木)	西 日 本 新 聞	若松病院閉院 議員ら危機感 北九州市議会 市側「関係機関と連携」			
6月12日(金)	KBC「ぎゅっと」	若松病院閉院を受け、市議らが市に要望書 後継誘致や通院支援を求める			
	TNC 「報道ワイド 記者のチカラ」				
6月12日(金)	NHK 「ニュースブリッジ北九州」	北九州市議会では若松病院の閉院について議論	産業医科大学 産業医科大学若松病院		
	NHK 「ニュース845北九州」				
6月13日(土)	TNC 「福岡ニュースファイル CUBE」	福岡で相次いでいる“病院閉鎖の動き” 若松病院についても紹介	産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月13日(土)	テレビ東京 「※諸説ぜんぶ見せます」	身体を一番早く冷やす方法の諸説について コメント	学長	堀江 正知	
6月13日(土)	毎 日 新 聞	北九州市議会 補正予算など可決し閉会 若松病院についても議論される	産業医科大学若松病院		
6月13日(土)	毎 日 新 聞 読 売 新 聞	若松病院閉院受け市議が市に地域医療体制 の維持・確保の申し入れ	産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月14日(日)	西 日 本 新 聞				
6月17日(水)	FBS「めんたいワイド」	若松病院の閉院決定を受け市と意見交換 地域医療の維持へ	理事長 生田 正之 産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
	TNC 「報道ワイド 記者のチカラ」				
	NHK 「ニュースブリッジ北九州」				
	NHK 「ニュース845北九州」				
6月18日(木)	RKB「THE TIME,」				
6月18日(木)	読 売 新 聞	「民間病院引き継ぎで調整」 産業医大理事長 閉院の若松病院			
6月19日(金)	西 日 本 新 聞	若松病院 閉院後体制 9月最終決定 産医大と北九州市 意見交換			
6月20日(土)	TNC 「福岡ニュースファイル CUBE」	地域医療の危機 若松病院が閉院へ 大学と北九州市の意見交換の様子や大学病 院への集約化、今後についてなど特集			
6月21日(日)	読 売 新 聞	病院の実力 主な医療機関の骨折治療の実績（2024年）	産業医科大学病院		
6月23日(火)	朝 日 新 聞	地域医療の空洞化 懸念 北九州・久留米 中核病院が来年閉鎖	理事長 生田 正之 産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月23日(火)	毎 日 新 聞	医療の疑問にやさしく答える患者塾 脾臓の病気＜上＞	第1外科学	平田 敬治	
			第3内科学	大江 晋司	
6月23日(火)	KBC「ぎゅっと」	深刻な“病院経営” 福岡でも病院閉鎖相次ぐ 若松病院についても紹介	理事長 生田 正之 産業医科大学 産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月23日(火)	TNC 「報道ワイド 記者のチカラ」	若松病院閉院へ 市立を引き継ぎ15年 背景に何が？			
6月24日(水)	読 売 新 聞	病院の実力 九州・山口編 「骨折治療」医療機関別2024年治療実績	産業医科大学病院 産業医科大学若松病院		
6月24日(水)	NHK 「ニュースブリッジ北九州」	北九州商工会議所 熱中症対策セミナー開く セミナーで講演	産業保健 経営学	永田 智久	
	NHK 「ニュース845北九州」				

報道機関で紹介された産業医科大学

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。「産業医大 報道」で検索してください。

〈6月4日(木)～7月31日(金)〉(広告、開催案内等の記事除く)

日時	媒体名	内容	所属	氏名
7月5日(日)	日 本 経 済 新 聞	暑さ東南アジア並み 働けぬ夏 熱中症の発症者数についてコメント	学長	堀江 正知
7月7日(火)	NHK「あさイチ」	今日から変わる!?蚊の対策 ウソ・ホント検証SP 蚊にまつわるウワサ等についてコメント	非常勤講師 (免疫学・ 寄生虫学)	荻野 和正
7月7日(火)	NHK 「クローズアップ現代」	“暑いけど休めない” 相次ぐ職場の熱中症 酷暑時代の働き方についてコメント	学長	堀江 正知
7月9日(木)	産 経 新 聞	運転士の眠気 科学で防ぐ 鉄道各社 要因分析やAI導入	第1生理学	丸山 崇
7月19日(日)	読 売 新 聞	病院の実力 主な医療機関の乳がん治療実績 (2025年)	産業医科大学病院	
7月20日(月祝)	日 本 経 済 新 聞	パワハラ「必要悪」の打破を 精神障害の労災急増	産業精神 保健学	江口 尚
7月22日(水)	読 売 新 聞	病院の実力 九州・山口編 「乳がん」医療機関別2025年治療実績	産業医科大学病院	
7月28日(火)	毎 日 新 聞	医療の疑問にやさしく答える患者塾 脾臓の病気<下>	第1外科学	平田 敬治
			第3内科学	大江 晋司
7月31日(金)	西 日 本 新 聞	熊本地震 被災地に安心を 産業医大も5人を派遣	産業医科大学病院	
7月31日(金)	NHK「ニュース」	熊本地震 現場の片づけ・復旧作業の注意点は “作業時間と休憩時間をセットにして”	災害産業 保健センター	立石清一郎

7.7 堀江学長が NHK 総合「クローズアップ現代」に 生出演されました

7月7日(火) 19:30～放送、NHK総合「クローズアップ現代」- “暑いけど休めない” 相次ぐ職場の熱中症-に堀江 正知 学長が生出演されました。

猛暑が深刻化する中、職場での熱中症が急増していますが、一方で、対策のコストが経営を圧迫するという厳しい現実も。堀江学長は、「こうした費用は削ることができるコストではなく、熱中症予防、いわゆる働く人の命と健康を守るために必要なコストとして捉える必要がある」とコメント。

また、「熱中症対策は医療の問題だけではなく、働き方や経済活動を含めた社会全体の課題として捉えていくことが必要」など、専門家としての見解を述べられました。



出前出張公開講座のご案内

8.25 出前出張公開講座「慢性肝臓病、クローン病・潰瘍性大腸炎」のご案内

- 1 日 時：8月25日(火) 13:30～15:00 (開場 13:00)
- 2 場 所：産業医科大学 産業医実務研修センター3階 (討論室1・2)
- 3 テーマ：慢性肝臓病とは？
知っておきたいおなかの病気 クローン病・潰瘍性大腸炎
- 4 講 師：産業医科大学 第3内科学
柴田 道彦 講師
産業医科大学病院 内視鏡部
渡邊 龍之 部長

■ 大学ホームページで事前申込みを受付中です。



産業医科大学病院 Hospital of the University of Occupational and Environmental Health, Japan

第28回 出前出張公開講座

慢性肝臓病とは？
産業医科大学 第3内科学
講師 柴田 道彦
専門分野 肝疾患、内視鏡

治療法は進歩しています！
～知っておきたいおなかの病気 クローン病・潰瘍性大腸炎～
産業医科大学病院 内視鏡部 部長 渡邊 龍之
専門分野 消化器疾患

2026年8月25日(火) 13:30～15:00 (開場 13:00)

産業医科大学
産業医実務研修センター3階 (討論室1・2) 受講料 無料

事前申込み受付中！
※特に聞きたい内容がある方は、8月14日(金)までに「お申込みください」の趣意にご記入ください。お電話でもお申し込みが可能です。

お問合せ先：産業医科大学 総務課 広報室
TEL 093-603-1611 (内線2030) kaho@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp

7.18 第27回出前出張公開講座を開催 ー間質性肺炎・肺がんー

7月18日(土) 15時から、ORION TERRACE (折尾まちづくり記念館)において、第27回出前出張公開講座を開催し、呼吸器内科学 田原 正浩 学内講師と第2外科学 浦本 秀隆 教授にご講演いただきました。



第27回 出前出張公開講座

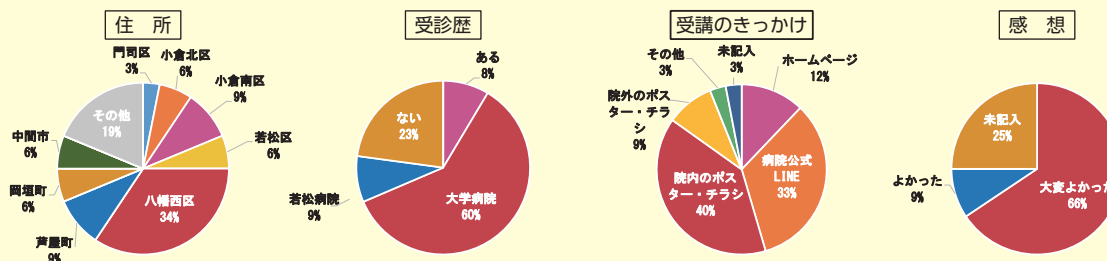
間質性肺炎ってどんな病気？
～早く見つけて、残った肺を守る最新治療～

産業医科大学 呼吸器内科学 学内講師 田原 正浩
専門分野 呼吸器疾患、肺がん、肺移植、肺再生医療、呼吸器救急、呼吸器リハビリテーション、COPD

もしも、肺がんと言われたら？
～広がる治療の選択肢と新たな希望～

産業医科大学 第2外科学 教授 浦本 秀隆
専門分野 肺がん、呼吸器、消化器小腸疾患、肺移植、呼吸器救急、呼吸器リハビリテーション

第27回出前出張公開講座アンケート結果



～受講者のコメント～

- ・ 配付資料とお話ですごく分かりやすいです。私自身、今まであまり関心なかった病気ですが、「すとん」とよく分かりました。説明が上手です。ありがとうございました!!
- ・ ロボット手術、肺の中をナビで病源まで案内されるという動画は衝撃的でした。
- ・ 大変良かったです。質問コーナーもとても参考になりました。

本誌にかかるご意見等につきましては uoehnews@mbx.pub.uoeh-u.ac.jp までお寄せください。
「産業医大通信」は産業医科大学web サイトでもご覧いただくことができます。
次号は2026年10月発行予定です。(本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。)